

⑩ 日本国特許庁(JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報(A) 昭60-84664

⑬ Int.Cl.⁴
G 06 F 15/21

識別記号 庁内整理番号
6619-5B

⑭ 公開 昭和60年(1985)5月14日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 受注管理システム

⑯ 特 願 昭58-193117

⑰ 出 願 昭58(1983)10月14日

⑱ 発 明 者 永 野 寿 太 郎 鳥取市南吉方3丁目201番地 鳥取三洋電機株式会社内
⑲ 出 願 人 三 洋 電 機 株 式 有 限 公 司 守口市京阪本通2丁目18番地
⑲ 出 願 人 鳥取三洋電機株式会社 鳥取市南吉方3丁目201番地
⑳ 代 理 人 弁 理 士 佐 野 静 夫

明 細 書

1. 発明の名称 受注管理システム

2. 特許請求の範囲

(1) 品名、個数等の注文データを入力するキーと入力したデータを記憶するメモリを備えた端末装置と、該端末装置よりの注文データの転送で厨房に設置された表示器に注文データを表示すると共に、注文データに基づき料金を計算するホストマシンと、注文品の完成をホストマシンに指示する厨房に設置されたキーボードと、注文品の完成をホストマシンの制御で指示する表示器で構成したことを特徴とする受注管理システム。

3. 発明の詳細な説明

(1) 産業上の利用分野

本発明は食堂、レストラン等の飲食店に最適な受注管理システムに関する。

(2) 従来技術

一般にレストラン等においては、店員が客より注文を聞き注文伝票に記入した後厨房に連絡し、料理が出来ると配膳をするシステムが採用され、

客は食事が終ると注文伝票をレジに持っていくと、レジ係の人は注文伝票を見ながら売上げを計算し客から代金を受取るようなシステムとなっている。

ところでこの従来のシステムにおいては、店員が注文伝票に手書きした後厨房まで連絡に行かなければならない為、時間がかかり客の待ち時間が長くなると共に、食事を終った後もレジの人が注文伝票を見ながら計算している間客は待たなければならないという問題があった。

(3) 発明の目的

本発明は上述の問題点を解消すべくなされたもので、注文の受け付けから最後の会計迄の処理を迅速に行なうことができる受注管理システムを提供することを目的とするものである。

(4) 発明の構成

本発明は注文の受け付けを行なう端末装置を設け、注文をキー入力すると入力データが通信回線によりホストマシンに転送され、厨房に注文指示を与えると共に精算をするよう構成したものである。

(5) 実施例

以下本発明の実施例を図面と共に説明する。(1) (1)…は客よりの注文を入力する端末装置で、キーボードより注文品名、注文個数、テーブル番号、オペレータ番号及び客数等のデータが入力され、入力されたデータを記憶するよう構成されている。この端末装置(1)(1)…はテーブル毎に設けても良いし又店員が夫々所持するようにしても良い。(2)(2)…はテーブルの下方あるいはフロアの適当な箇所に複数個設置される通信アダプタで、端末装置(1)(1)…が結合されるよう構成され、端末装置(1)(1)…より送出されたデータを受入れて送り出すよう構成されている。(3)は通信アダプタ(2)(2)…を介して入力された端末装置(1)(1)…よりの注文データを処理するホストマシンで、注文データに基づき厨房窓に設置された表示器(4)に注文品名、テーブル番号等を表示させ厨房窓に作業指示を与えと共に、料理が出来上がった際厨房窓のキーボード(6)よりの完了信号を取込み、店員が待機している場所に設置されている表示器(6)に完成した料理を表示し注文を受けた店員に知らせる。又客が食事を終りテ

ーブル番号カードを持って来たる際、テーブル番号の入力で料金を計算し表示すると共に、印字装置(7)でレシートの発行を行なう。

第2図は端末装置(1)を示す図で、シフトキー(8)との組合せて56種類の品名を指示する28個の品名キー(9)と、客数あるいは注文個数等を入力するテンキー(10)と、品名キー(9)以外の品名を入力する場合に使用するその他キー(11)と、オペレータの番号を入力するオペレータキー(12)と、テーブル番号を入力するテーブル番号キー(13)と、客数を入力する客数キー(14)と、表示されたデータをメモリに記憶させる登録キー(15)と、注文が終了した時操作する終了キー(16)と、入力した注文を確認する確認キー(17)と、確認キー(17)の操作で表示されている品名を取消す取消しキー(18)と、メモリに記憶したデータを転送させる転送キー(19)と、入力されたキーに基づき品名、単価、個数、テーブル番号等を表示する表示器(4)を備えている。

第3図は端末装置(1)の回路構成を示すブロック図で、前述の各種キーよりなるキーボード(2)と、

キー信号を取込み表示器(4)に表示を行なうと共に第1、第2メモリ(20)(21)に入力データを記憶させ又記憶したデータを読出し転送するよう制御する制御回路(22)と、通信アダプタ(2)と接続しデータの授受を行なうインターフェイス回路(23)で構成されている。

次に所る構成よりなる本発明の動作につき説明する。

先ず使用に先立ち端末装置(1)(1)…を通信アダプタ(2)(2)…に接続した後、ホストマシン(3)より品名キー(9)に対応した品名データ及び単価データ、店員の暗証番号等を転送し、端末装置(1)の第1メモリ(20)に記憶させる。全ての端末装置(1)(1)…に一斉にデータが入力される為、品名の変更あるいは追加又は単価の変更等を容易に行なうことができる。このようにして予め所定のデータを入力したところで、客が入り注文を受ける際は、テーブルの下の通信アダプタ(2)から端末装置(1)を取り外し客の注文に応じキー入力する。その際客が注文を考えている間にテンキー(10)とテーブル番号キー(13)、客

数キー(14)及びオペレータキー(12)により、テーブル番号、客数及びオペレータ番号を入力しておく。そして注文が決ったところで、品名キー(9)の内から所定のキーを選択すると、キー信号を取込んだ制御回路(22)は第1メモリ(20)からキー信号に対応した品名と単価を読出し表示器(4)に表示させる。そこで品名にまちがいがなければ登録キー(15)を操作すると、注文した品名が第2メモリ(21)の所定の領域に記憶される。次に注文個数をテンキー(10)より入力すると、注文個数が表示器(4)に表示される為、確認後登録キー(15)を操作し注文個数を第2メモリ(21)に記憶させる。以後同様に注文品の品名と個数の入力を行ない第2メモリ(21)に順次記憶させていき、注文が終ったところで終了キー(16)を操作するとテーブル番号、品名、個数、単価、客数のデータが1つのブロックとしてまとめられ転送可能状態に設定される。

注文を受取った店員は端末装置(1)を通信アダプタ(2)に結合し転送キー(19)を操作すると、第2メモリ(21)に記憶された注文データが通信アダプタ(2)を

介してホストマシン(3)に伝送される。端末装置(1)よりの注文データを取込んだホストマシン(3)は、品名と個数を厨房室の表示器(4)に表示し作額指示を与えると同時に、料金の演算を行ないホストマシン(3)のメモリに注文データと共に記憶する。したがって店員は端末装置(1)により注文データをキー入力するのみで厨房室迄連絡に行く必要がない。一方厨房室では表示器(4)に表示された品名と個数を見ながら順番に調理を行なう。そして料理が完成したところで厨房室に設置されているキーボード(5)により完成した料理を入力すると、厨房室よりのキー信号を取込んだホストマシン(3)は、厨房室の表示器(4)から完成した料理の品名を消すと共に、店員が待機している場所に設置されている表示器(6)に出来上がった品名とテーブル番号を表示し店員に知らせる。これを見て店員は客のところに料理を運ぶ。尚注文の追加がある場合には、端末装置(1)より追加のデータを入力し伝送すると、前述と同様にして厨房室に指示されると共に、ホストマシン(3)で追加の料金の加算演算が行なわれる。

このようにして注文の追加も容易に行なうことができる。

食事を終った客はテーブル番号カードをレジの所に持って行く。レジ係の人はテーブル番号をホストマシン(3)に入力し所定のキー操作を行なうと、ホストマシン(3)では既に演算しメモリに記憶していたデータを読み出し直ちに印字装置(7)で印字すると同時に合計金額をホストマシン(3)の表示器に表示し客に知らせる。したがって客は従来のようにレジで待たされることなく直ちに料金の支払いを行なうことができる。支払いが終了するとホストマシン(3)は端末装置(1)の先程の客のデータをリセットする。

尚ホストマシン(3)はコンピュータ、電子式キャッシュレジスタあるいは専用設計されたデータ処理装置等で構成することが可能で、レジの所に設置され料金の精算と各種の制御を行なうように構成される。又ホストマシン(3)では注文の指示を厨房室に与えてから配膳迄の時間の管理、あるいは注文毎の料理時間等の時間データの集計等細か

いデータの管理を行なうこともできる。

更に端末装置(1)には品名リストを付けることにより、店員のキー入力が容易になると共に誤りを減らすことができる。

(ハ) 発明の効果

上述の如く本発明の受注管理システムは、端末装置で注文データを入力することにより、厨房室に指示すると共に料金の演算を行なうシステムであり、従来のように注文を伝票に書込む必要がなく又注文品を店員が厨房室迄連絡に行く必要がなく、更に食事を終りレジの所に行けば料金が直ちに分る為、伝票がなく且つ客の待ち時間を大幅に短縮することができるもので、食堂、レストラン等に最適な受注管理システムで実用的効果大なるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の受注管理システムの構成を示すブロック図、第2図は端末装置の外観を示す図、第3図は端末装置の構成を示すブロック図である。

(1)(1)…端末装置、(2)(2)…通信アダプタ、(3)…ホ

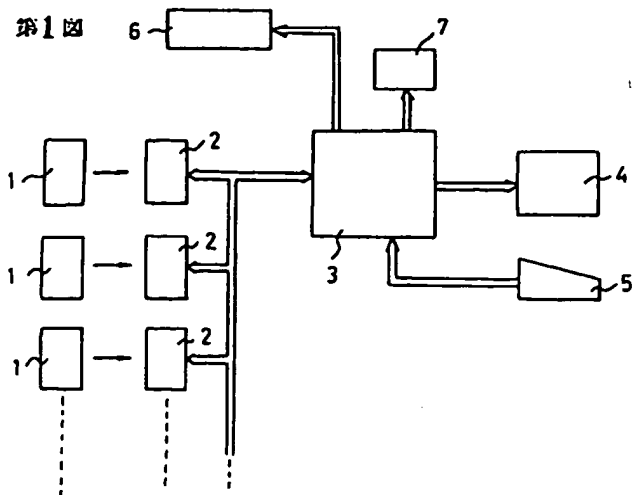
ストマシン、(4)…表示器、(5)…キーボード、(6)…表示器、(7)…印字装置、(8)…キーボード、(9)…第1メモリ、(10)…第2メモリ、(11)…制御回路、(12)…インターフェイス回路。

出願人 三洋電機株式会社 外1名

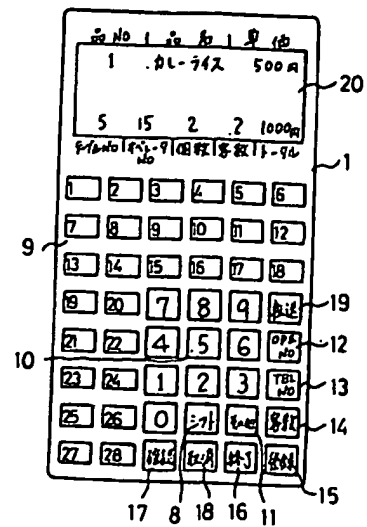
代理人 弁理士 佐野 朋夫



第1図



第2図



第3図

